

ラムが名づけた

グロツキー

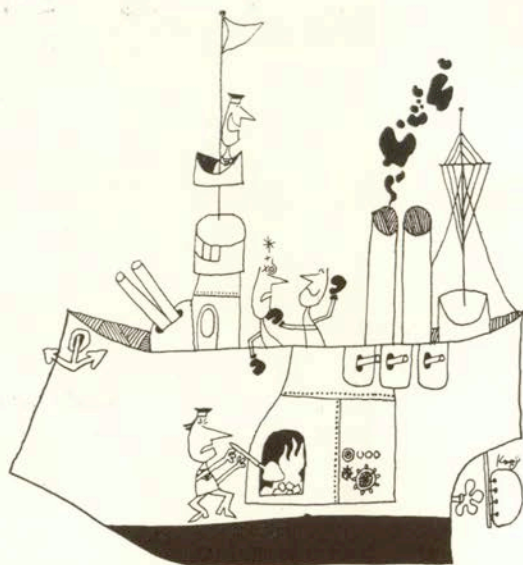
昔から船乗りにはラム酒はつきものだった。現在は重油をたいて走るディーゼル機関の船が多くなったが、これまでの、煙をはいて海を渡った船はみな、船底でボイラー

のラムを、生のままで支給されていた。ところが、ポルトベロ占領戦の英雄としてあがれるバーノン提督は、この年、旗下の船員に「ラムと水とを半々にまぜて支給する」と命令した。

までのアダ名が、彼の支給した酒の呼び名となり。水で倍に薄められたラムのことを「グロツグ」と呼ぶことになった。そんなイワクがあったのに、18世紀の終わりごろにはそんなことはすっかり忘れられ、全海軍をあげて「グロツグほどよいものは、どこにもない」といわれるようになった。

藤本義一
え・佐々木侃司

洋酒はなしのタネ



に石炭をくべる。火夫は百度以上の熱さにさらされるので、これに耐えるため、ときどき交代で甲板へあがっては強制的にラムを飲まされた。もちろんあちらの話である。

1742年までは、イギリス海軍の兵員たちも、毎日半パイント

「とアダ名されていた。ところが水で割ったラムを飲ませよというような、人のいやがることをやってのけたので、彼はしばらくのあいだ「ゲチの司令官」といわれるようになった。この飲み方の本当のよさに、みんなまだ気がつかなかったのである。そこで彼のそれ

いま日本では、テレビの普及とともにボクシングが爆発的な人気をさらっているが、その用語「グロツキー」という言葉は、英語グロッキー (Groggy) のナマリであって、このグロツグを飲んだために深酔いしたサマをあらわした形容詞であり、のちに転じてボクシング用語となって、ヨロヨロとよろめく様子をいうようになったのである。

・ギムレットカクテル

Gimlet Cocktail

辞書をひいたらネジ錐とかいてありました。これがオナカのなかを駆けめぐると、食欲はグンとすすんで何でもかでもパクパクとべたくなりす。男のなかの男がたしなむカクテル、ネジきらいなように気をつけてどうぞ

ヘルメスジン

トリスライムジュース 1/3

以上をよくシェイクして、カクテルグラスについでします。



マタム コンパンワ

OCTOP

オクトップ



たましひのしづかにうつる菊見
かな(蛇笏)——という句がある。
「オクトップ」のママ坂口修子さ
んが「好きな花は菊とマーガレッ
ト」といったとき、ふとその句を
思い出した。単にことばの連想で
はない。菊とむかいあうようなた
たずまいが、この人にはある。そ
れも大輪のあでやかさでなく、秋
の野辺に一輪ずつ寄りそった野菊
の清らかさだ。生田筋の朝鮮料理
「金剛山」の路地を西へ入って十
米。しつとりと、それでいて小マ
タの切れ上がった店である。

坂口修子さん——あるいはご記憶
のムキもあるかも知れない。いま
から七年前の五月、マニラで開か
れた第二回アジア・オリンピック
に出場、高飛びこみ、板飛びこみ
の二種目に銀賞を獲得した人。と
いえば、均斉のとれた伸びやかな
肢体に、ナルホドと合点がいくだ
ろう。奔放自在に水とたわむれな
がら、なお執着を残しているのか
店の名も「オクトップ」(タコと
いう意味の由)とシャレた。

したがって、客筋にはスポーツ
を愛する人が比較的多い。淡パク
なようで、さびしがり屋、ハツタ
リのきらいな誠実さ。人が人を惹く
のだろう。乳白色のやわらかな光
線とカウンターのにぶい反射光の
まざり合うなかで、いかにもシロ
ウトくさいティネイな物腰を崩さ
ない。どちらかといえば思い切っ
てシンブルなデザインと色彩を身
にまとった方がビツタリくるが、
それもプロボーシヨンの美を裏
書きすることになるのか。とがっ
た気持を解きほぐす清涼剤?とも
いえる。

(A)

御中元の最適品



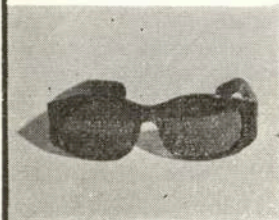
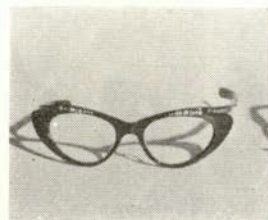
洋品の店
予 秘 窓

神戸元町四 TEL ④6959

サングラスで 楽しく・美しく

夏のアクセサリとして
楽しいサングラスを

● サングラス
豊富品揃



¥ 250~

平井メガネ

生田区加納町4丁目1ノ1
国鉄三宮北側 ② 7937



一店紹介

元町4丁目

洋品の店 千秋堂

信用ある洋品の店

元町四丁目（本通り）のなかほど浜側に、いつもフレッシュな感じのワイシャツ、スポーツ・ウェア、ネクタイなどが美しく飾られているお店が、神戸っ子の足をとめる。古くから「高級紳士洋品店」として親しまれている「千秋堂」がそれ。

大正時代、多聞通りに開店した先代「千秋堂」のお店を、ご主人の仲道頼市さんが、受けつがれ昭和二十四年から現在の場所ではじめられたというから、その歴史は



（写真は豊富な商品で彩られた店内で応対する仲道さん）

古く、お客さまも固定している。ワイシャツ、ネクタイ、スポーツウェアが、主な商品だが、このほか、紳士はだ着、クツ下、カウスポタンと多種多様な紳士洋品が豊富にそろっている。いずれも品物は、東京と大阪方面から仕入れていられ、品質とセンスという値段より、品質とセンスということに重点をおいて仕入れております」とご主人がおっしゃるだけあって、お店に並べられた赤、青、チェックなどのスポーツ・ウェアは、ハデな中にも上品さを失しない、いわゆるシックなものが

多い。サイズの種類も小、中、大特大とバラエティに富み、ことに巨人用サイズには力を入れているという。また、技術歴が二十数年という熟練工をもつ、このお店のオーダーシャツは「文句のない仕立」として定評がある。お客さまは、事業家をはじめ、会社重役、商売人と層は広く、電話一本で注文するお得意さまが多いのもこのお店の特色の一つ。いつもにこやかに応待してくれるご主人のおだやかな人柄には、近親感を覚えるまた、お客さまと交わされる会話にも和気あいあいとした雰囲気を感じられるお店である（五十嵐）



波止場

細野耕三
中西勝・画

△前回までのあらすじ▽

私（阪神日報の海運記者）はアンコ死亡事件を追求してその確認を得た。だが、部長は何故か、記事として報道することに気が進まないふうだった。

私は部長に喰い下った。ここで諦めたのでは一切が水泡だ。波止場の巨大な構造、勢力に私が負けたことになる。

「とにかく、局長に相談してみて下さい」

「話すだけは、話すがね」

「それじゃ困ります。絶対に活字になるように頑張ってください。第一、この暴力事件を見逃してしまったのでは街を明るくする運動、暴力追放はカラ念仏じゃありませんか」

「判った。一諸に局長のところに行こう。俺にその科白をたたきつけるより、局長にぶつけた方が効果はあるぜ。社会正義の戦士、記者精神に徹した青木孝男君、万才ってわけだ」

部長は私の胸中を見抜いていた。新聞記者生活二十年の部長は、いい面も悪い面も知り過ぎている。いくら私が猪突を試みたところで、口では「そうだな、君の云う

通りかも知れん」と云っても、腹の中では、反対の事を

考えているにきまっている。その証拠に部長は私をからかいだした。私は意気込んで、部長は幾分迷惑そうな表情で局長の机の前に立った。局長は私が調べた簡単なメモを見ていたが、眼鏡をはずして上目使いに私を見た。

部長と同じことを云うものと、決めていた私は、最初、局長の言葉に、自分の耳を疑った。

「行こう」

「はあ？」

「やつつけようというんだよ。丁度、兵庫県下一斉に暴力追放期間だ。大々的に報道して県政市政の方針にそうようにしよう」

私は局長にそう云われて、そう云えば生田署にも三階の窓から地上にとどくほどの大きな、「暴力追放、明るい街作り運動」と書いたのぼりがさげられていたのを感じた。

「それにしても、よくやったね。青木君。こういう問題はとかく掛声だけに終ってしまうものでね。頑張ってくれ給えよ」

「はい」

私は感激した。血管が一度にふくらむように胸が熱く

なった。汗みどろになって歩き廻った努力が報われたのだ。私はふと部長は何故反対したのだろうと思った。部長の顔を見た。部長はそれまで私の横顔を見ていたらしく、私が横を見ると同時に窓の外へ視線をそらした。私は恐らく口許に得意そうな笑を浮べていたに違いない。いや、老化したベテラン記者に対する蔑すみの冷笑だったかも知れない。部長はそんな私を見るのが厭だったのだらう。私は部長の心の動きを察すると、得意になっている時の私の悪いくせがでてしまった。

「部長、産むは案ずるよりも易しですね」

私は部長の表情にでる敗北感を持っていたのだが、何故か部長の眼に、私をあわれむようなものが漂った。

部長の席に戻ってから私もまだ追打ちをかけるように云った。

「局長は案外話が解りますね。ちょっと意外でしたよ」

部長は微かに笑って「君がそう思うなら、それでもいい。こうなれば徹底的にやるより仕方がないだらう。及ばずながらと云ったら君の事だ、気を悪くするかも知れないけど、僕も社説欄で応援するよ」

部長の含みのある言葉は気にかかった。だがベデラン記者の部長が応援するという事には素直に感謝した。

記事は翌日の朝刊からというやつを、その日の夕刊に無理して第一報をださせた。整理部や版組の係りには、私自身が頭をさげて頼んで廻った。トップ記事だった。

吉田事件はそれから一週間、ぶっ続けて、「お骨になった証拠」とか「アニコ故に、警察も見て見ぬふり」といった煽りような見出しで活字になった。

阪神日報だけの時は警察はまだ動いていないようだった。然し地方有力紙である紙とS新聞がこの事件を社説で、朝毎誌の三大新聞が特集で三面一杯に報道しただけから、警察も特捜本部を生田署に設けて、本格的に動き出した。

私の得意は絶頂だった。吉田事件のスッパ抜きは社会部の連中を口惜しがらせた。でも社会部は私のいた元の

古果だ。仲間は嬉んでくれた。

「アーさん、遂にやったな。骨になっていた証拠ちょっといかすぜ」

「スリラー小説の題名にはね」

私は唇をゆがめて笑った。

「こいつは局長のアイデアだな。巨大な波止場の牙なんという見出しわさ」

「だけど特号活字だぜ。ボンボンと。俺も一度はこういう記事をだしてみたいね。」

「全くだ。どうだいアーさん気分は。明るい顔して貰うかな。パットさ。局長賞をもらったんだらう」

仲間は私を囲んで冷かしたり騒ぎたてたりした。だが私は仲間と一語になって騒げなかった。その日の記事に隆が加害者となって挙げられていたからである。

「そいつが、あんまり寝ざめがよくないんだよ。加害者になっているこの手配師の隆という男ね、気の弱そうな人のいいオヤジなんだ」

「気に病んでいるのか。人は見かけによらないものだって云うぜ。そんなのが案外カーツとして狂暴なんじあないのか」

「リンチを加えた奴は、この隆という男だけじゃない。

その前にさんざん痛められていたんだ。吉田が砂糖を一杯掻払ったのを見付けたのはK運輸の荷役監督だ。K運輸の小頭やウインチマンが袋叩きにしている。それを見た恩田組の労務係がまずい事になったと思ったわけだ。恩田組はK運輸の下請だらう。事故を起して後の仕事ながく貰えなかったらと考えたわけだ。そこでこの野郎ウチの顔に泥を塗るやがって、と大見栄を切って揉る更に三次下請の栄組の連中が加わった。そこえ手配師の隆っていうこの男が馳つけたわけさ、被害者の吉田は彼が栄組に入れている。彼にしたら自分が世話したアニコが事故を起せば、今後の出入を差し止めされる。忽ち浜では生きて行けなくなるので、もう伸びている吉田をゼスチュアも入れてゴッソとやったわけだ」



私は暗い気持だった。おそらく仲間の記者がいうように検数協会のタリーマンも、労務者も、隆の他に数人が踏んだり蹴ったりした事は口外するまい。とすれば結果は隆一人にしばらくしてしまおう。「共犯の線では行けないだろうな」

「先ず無理だろう。かんじんの死体が灰じゃね」

私はK紙の論調が手配師制度の存在を鋭く突いていることも、隆に不利になっていると思った。

「アーさんは、隆個人にはひどく同情的だが、ちっと加害者心裡じゃないか。老練の刑事が強殺犯の寝込を襲って引張る時に、そいつの家庭に子供なんかが居たりすると、当分、刑事稼業がいやになるそうさ。第一、手配師というのは違法なんだろう」

「うん、K紙もそれを追求しているが、それは全港湾労組の線だ。全港湾では力説していた。理由はある。指命アンコ、直行アンコの常雇化を組合の理想にしているからな。が実際問題として、本家仲間、分家仲間といわれるにこの二次、三次下請会社の常雇者と、アンコでは一諸にならないことも知っている。荷役能力は雲泥の差だし労働に関する考え方も本家仲間、分家仲間は真剣だ。俺は今度の事件で波止場を歩いてみてはじめて判ったのだが常雇とアンコは一眼で区別がつくんさ」

「すると、アーさんは今後どの線で行くんさ。やはり暴力の温床となっている港湾荷役会社の特別事情、つまり大会社ほど危険分散を口実にして常雇をへらしているこの面を叩くのか」

「結局そうなるな。事件は一応、社会部に渡すよ。俺は本来の海運記者に戻るさ。そして港湾荷役機構そのものを叩く。さもないければ汚物を放っておいて、蠅を追うようなもんだからな」

「相変らずアーさんらしい行きかただよ。それにしても局長賞おめでとう。今晚オゴレよ」「全くだ、海運記者に社会部がいかれたようなもんだからな」

仲間は喜んでくれた。私も仲間の祝福を素直に受け取っ

「そいつが応えたのか」

「相当まいていた後だったからな。それにしても、目撃者は多勢いたはずなんだがな」

「アーさん、浜の人間は証言はしないぜ。後が怖いからな。然しアーさんの話は何処からでたんだい」

「降からなんだ。奴が吉田の手配師だとつきとめた日にな」

「じゃ証言にはならねえな。奴さん警察でも同じことを云ってるし、奴こさんの顔付けで榮組に入っている指命アンコが確かに昆棒で撲ったのを見たと言っている」

た。

その翌日から、私は記事の上で波止場の機構を追求しだした。まずアンコの存在についてだ。波止場のアンコの存在についてだ。波止場のアンコが職安の失対事業の一部に利用されていること、しかも職安支払の賃金より手配師を通じての方が賃金が高額である事をあげた。という事は、月末月始めに殺到する出入港船に対して常雇者が絶対数不足している。つまり三大倉庫の下に六大元請会社があり、元請会社は二次下請会社を何社か抱えている。その事、自体が雇用人員を減らしての危険分散だ。

二次、三次下請会社は船ごみの時だけアンコで人員不足を補う。ここに手配師が必要悪として認められる事実がある。

結論として、私は今度の吉田リンチ事件でも、その責任は一番弱い手配師の隆が一人でかぶってしまったように、経営面でも同様な事が繰返されている、と数字をあげて書きだした。

この記事は、当然、質上げ闘争中の全港湾労働組合が利用する結果になった。はじめは大いにハッパをかけていた局長の顔が次第にむずかしくなった。

「赤が利用しだしたね」なぞと、それとなく具体的な数字やグラフをあげることに難色を示しだした。

特に海運関係官庁と倉庫、元請荷役会社が組織している港湾振興協会が反論声明のパンフレットがでだしてからは、最初の意気込みはなくなった。

以下次号

◆ 読者サロン ◆

・号を重ねるにつれ、内容も充実してきた感じです。タイミングのよい対談「神戸とマルセイユ」どうもありがとう。欲をいえばマルセイユの風物写真がほしかったですね。福富先生の『雨の日のオシャレ』とても参考になりました。

早速、組み合せの工夫を試みたところ、家中の人が「同じレインコートを着てるのに、ずい分感じが違うよ」ってほめてくれました最後に、わが母校松蔭女子学院の紹介—とても気をよくしています。いっそう「神戸っ子」が好きにな

りましたワ。(兵庫区・加納薫)

・遠く故郷を離れて生活している私にとって、毎月友人から送られてくる「神戸っ子」は、唯一の心の慰めです。六月号のショッピング頁の組み合わせはステキでしたね。懐しいお店がズラリと並んでいるので、うれしくなりました

(東京千代田区・大村昌子)

・六月号の表紙ビュッフェの絵はよかった。小品だが有名人の画集をしている私には何よりのプレゼント、しかもビュッフェの絵が神戸のバーに飾られていたとは驚きだ、一度ぜひあの絵を見にいこうと楽しみにしている。

(川重秘書課長・飛松実)

・神戸をはなれてから二十年近くになります、それまでの二十年を神戸に暮した小生にとって『神

戸っ子』は、懐しい。また新しい神戸を思わせるよすがとなっております。ユニークな編集にご苦労のあとがしのばれ、一人でも多くの愛読者がふえるよう、一層のご精進を祈ります。

(大阪・東洋紡績経研、玉永一郎)

神戸っ子案内

☆月刊「神戸っ子」を毎月お読みになりたい方又神戸を離れているお友達にプレゼントなりたい方は編集室にお申込み下さい
6ヶ月分500円(送料共)

☆誌上の神戸銘店にはお客様のサービスとして「神戸っ子」がおかれています

☆本屋さんに「神戸っ子」があります 文洋堂国際会館1階 海天堂元町3

ひんくこーなー



日本の政治家はよく「天地神明に誓って」などと申しますが、今どきはもうこんな大時代なのはやりません。かえって「ウソをいってらい」という気になります。そこへ行くと外国にはいろいろとおもしろい誓いかたがありました



ひんくこーなー

ソクラテスは「犬に誓って」というのが口グセだったようですし、ビタゴラスは「水と空気に誓って」とやったそうです。暴君ネロのお気に入りだったペトロニウスという粋人は、さすがに誓いのことばもアカ抜けがしておりました。「カリス（女神の名）の白い膝に誓って」というのですから、これがおそらく誓いのことばとしては最高といっているでしょう。ところで、白い膝ですが、ピッタリと身についたタイトスカートから少しのぞいている、かわアいい膝小

からほごして取るのが素晴らしい楽しみなのよ。ちようど恋をしている男が初て娘の胴着を脱ぐのを手伝うのと同じ気持ちなのよというわけです。

カモの足の肉と女性の衣服とが大いに関係があるといったら不思議な顔をされる方があられるかもしれませんが、ヘルマン・ヘッセは作品のなかでこんなふうに書いています。「このカモの足の肉ね、このきれいなスキ通るような肉を骨

マは「女に着物を買ってやるのはそれを脱がせるのがたのしいからさ」と、けしからんことをいっております。ゴッティエも「ボクの思い通りに結び目がとけなかったりボタンがはずれなかったりするとみずから進んで裂いたり破ったりする女性が好きだ」といいます

僧を拝見したら、誰だって誓いたくもなるでしょう。だが、なぜ膝に「小僧」をつけるのでしょうか。ただ小さくてかわアいいからでしょうか。それとも鼠小僧や稲葉小僧のように、知らぬ間にすべりこんだり、割り込んだりするからかもしれないですね。

「あんな、膝をそう押しつけないですよ」

「膝だって？、天地神明に誓ってコレは膝じゃないよ」

じゃ、いったい何でしょう？

(T)

た女の子はこどものころに、お人形の着せかえ遊びをするのが大好きですが、大きくなると、こんどは男性の方がこの遊びに夢中になる傾向があるようですな。ただし男性の場合は次のようです。

「ねエ、ちよつと手伝って……」といわれると、彼は待っています。したとばかり、うしろへ回ってホックやボタンをはずします。ところがしばらくして「ねえ、着るのを手伝って」といったら「着るのは勝手に着たまえ」

(T)



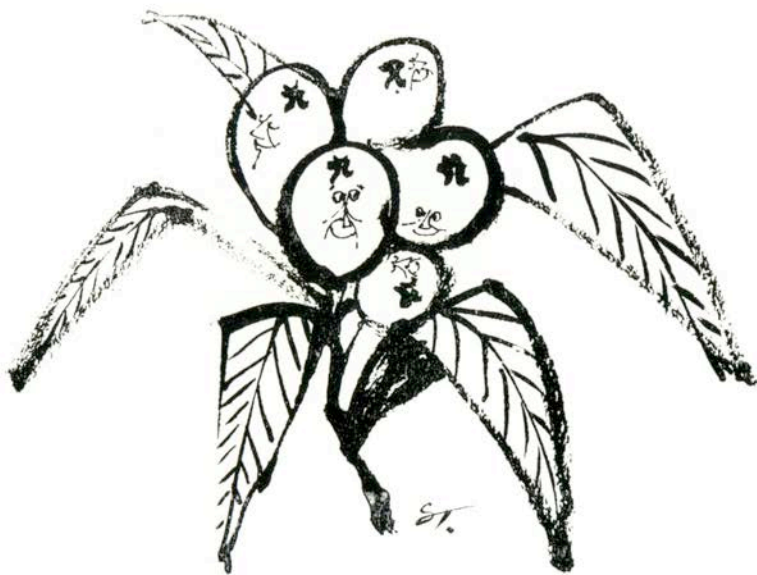
THE SECOND COVER

ヘレン・ヒギンスを思わす八頭身美人—清水靖子さんは、美女の多い松蔭女子学院出身、神戸ドレスメーカー女学院では好きなデザインを勉強、もっか花嫁修業中。ラテン音楽が大好きという、明るい性格の神戸っ娘でハスキーな声も魅力的です。

撮影 衣川 宏

7月号の発行に色々とお世話
いただいた方々

雄一 子造 英平 夫楽 勝渥 二介 郎七 勝美 男二 雄城 慧
重正 真伊 都 眞ツ ト 良芳 喜 勝孝 健達 芳高 襄辰 月
木並 崎部 根淵 西磯 林本 川村 中井 西富 井地 崎 杉
青榎 岡岡 曾小 大川 小古 阪白 滝田 田永 中福 松宮 百森 若



編集後記

「涼」に恋こがれるシーズンを迎えました。でも「海と山」に囲まれた神戸っ子は幸せですね。週末や夏休みには、神戸の軽井沢といわれる「六甲山」にまた須磨や舞子の浜へと一手軽に「涼」を求めて出かけられるんですもの。ところで今月は、神戸っ子の皆さまはじめ、休みを利用して神戸にこられる方たちをとくに「涼しい」神戸名所へご案内しようと「涼線を求めて」を企画しました。一度ぜひお出になってみてください。

・本誌のカットを書いてくださった中西勝氏（二紀会）のお宅鴨子ヶ原にこのほど立派なアトリエが完成。静かな自然美に恵まれた環境と、ガラスを張りめぐらした明かるいアトリエーきつとすばらしい絵が生まれることでしょう（おめでとうございます）

・同じく連載小説「波止場」の作者細野耕三氏は、住み慣れた神戸を離れ、いよいよ東京で活躍されることになりました。住む都会でなく、生きるための都会——といわれる東京でのご活躍を祈っております。

しあわせをあなたの家庭に運ぶ
よい商店・よい商社えのご招待

(ページ別)

神戸日野自動車K・K	表 2
御木本真珠K・K	2
ヒロタ	2
マルゼン	4
北村パール	4
風月堂	10
柴田普吉洋服店	10
サノヘ	14
マキン	14
合同タイマ	17
ちんから屋	17
美田時計店	23
フナキヤ	23
田崎真珠店	24
元町バザール	24
神戸トヨタディーゼルK・K	25
エスターニエートン	34
タジマ	34
神戸シキツ	35
シラサ	35
淡洲堂	35
ハウリスタ	35
スギヤ	36
イクシマヤ	36
トーレイ洋装店	36
永田良介商店	36
国際コンタクトレンズ研究所	37
マーキエリー	37
三恵洋服店	37
富田屋	38
ドング	38
神戸通船K・K	38
神戸屋	38
キヨシマヤ	39
大久保洋服店	39
太田への甲店	39
長崎堂本店	39
元町電機	45
平井メガネ	45
千秋堂	45
ユーハイムコンフュクト	表 4
そこう	表 4

- 本誌広告により広告主へ直接御注文やお問合せの際は「神戸っ子」広告による旨お書き添え下さい。
- 広告主の住所不明な時は「神戸っ子」編集室にお問合せ下さい。お取次いたします。
- 「神戸っ子」に広告掲載御希望の向きは「神戸っ子」営業部宛御照会下さい。「神戸っ子」編集室

北 欧 の 銘 菓

ク ッ キ ー

ピ ラ ミ ッ ド ケ ー キ

バ ア ウ ム ク ー フ ェ ン (ド イ ツ 名)

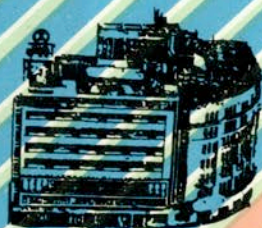
ム ン デ ッ ド

ユ ー ハ イ ム
コ ン フ ェ ク ト

工 場 神 戸 市 葦 合 区 熊 内 町 1 丁 目 ・ ② 2 3 3 6
神 戸 市 三 宮 町 2 丁 目 ・ ③ 4 3 1 4
三 宮 店 神 戸 三 宮 生 田 筋 (階 上 喫 茶 室) ③ 0 1 5 6 ・ 7 3 4 3
芦 屋 店 省 線 芦 屋 駅 前 通 り ・ 芦 屋 5 6 0 5
大 丸 店 神 戸 大 丸 地 階 銘 菓 街
阪 急 店 大 阪 阪 急 地 階 食 料 品 部



行きよい
買いよい
楽しい
“そごう”



抽せんが2度楽しめる…三宮中元セール 三宮センター街・そごう共催

月刊「神戸っ子」

発行所／神戸市箕谷区御幸通八丁目九ノ一
昭和三十六年七月十五日発行 毎月一回

神戸国際会館一階
編集／五十嵐恭子

TEL(2)七〇三七 頒価七〇円
発行／小泉康夫 (送料10円)